

愛知県 岡崎市立上地小学校 2年生 132名

磯谷 みどり 先生

テーマ 【凜々子栽培を通して野菜への愛着をもち、
食への関心を高めることのできる子の育成】

■ 活動のきっかけ:

本校は計画的に整備された住宅地にあり、庭や畑があまりないため、子どもたちが野菜を育てる機会は少ない。そこで、本校の「食に関する指導全体計画」(食育)と関連付けて、生活科単元計画(全17時間、別添資料参照)の中でさまざまな野菜と一緒に「凜々子」を栽培することにした。

■ 活動のねらい:

- 野菜を育てる中で、土に触れ、継続して世話をし、野菜に愛着をもつ
- 野菜を収穫して調理し、味わう中で、野菜の旬を知り、食への関心を高める

■ 活動の流れ:

① 「野菜名人」と一緒に苗を植える(5月7日)

学区内に住む農家の方を「野菜名人」として学校に招き、野菜の植え方や世話の仕方を教えてもらった。子どもたちは名人に教えてもらったことを確認しながら苗を植えた。また、水やり用のペットボトルを下駄箱のそばに置いておき、各自が自分の野菜の世話をすることにした。



② 世話の仕方を調べて実践

定植後10日を過ぎた頃、「肥料をあげなくてもいいの?」と話す子どもが出てきた。そこで、宿題として自分の野菜の世話の仕方を本や家族に聞いて調べることにした。調べたことを発表した後で、支柱を立てたり、追肥したりと各自野菜の世話を行なった。こうした世話をすることで、子どもたちは自分の野菜への愛着を深めていった。

③ 「やさいのけんこうかんさつ」で、毎回観察のねらいを明確に

1回目(植えてすぐ):「自分の野菜のすごいところを見つけよう」と声をかけ、観察したことを絵や文で表現した。

2回目(花が咲く頃):「以前観察したときと変わったところ」を観察した。算数で長さの学習をしたことをいかし、長さを測ったり実や花の数を数え、具体的な数で野菜の生長を実感する子どももいた。

3回目(実がなる頃):全員が野菜の生長をより詳しく把握できるよう「野菜のすごいところの発見の仕方」を話し合った上で観察を行なった。すると、前は「実ができました。うれしかったです。」と書いた子どもも「30cm8mm もあったよ。くきの毛が多くなっていったよ。」と、より細かく、具体的な数字を使って記録した。



④ 友だちの悩みに調べたことを活かす

友だちの野菜が収穫を迎えたのに対して、自分のトマトが赤くならないと発言する児童がいた。「水をあげるといいと思う」という意見に対して、「水やりはしているけど、赤くならない」と回答、子どもたちは「どうして水遣りをしているのに赤くならないのか」という疑問にぶつかった。複数の子どもから「トマトは他の野菜よりも水がいらないと本に書いてあった」という意見が出て、話し合いの中から「今は雨が多い季節だからあまり水をやらなくてもいい」ことに気づくことができた。



⑤ 収穫祭を開こう

収穫した野菜でどんな料理を作りたいかを学級で話し合い、野菜サラダとギョーザピザを作った。初めて包丁を持った子どももいたが、自分たちで育てた野菜をのせた「凜々子」のピザは、食の細かい子どもやトマト嫌いの子どものも残さず食べた。感想には、みんなで収穫し、味わうことができた喜びが表現されていた。



■ 活動を通して得られた成果:

- 「凜々子」の栽培によって、土に触れ、育てる喜びを感じることができた。
- 「凜々子」の世話の仕方について話し合う中で、友だちと関わり、よりよい考えを作り出すことができた。
- 「凜々子」を収穫して調理し、食べることを通して、命をいただいていることを実感し、野菜が苦手な子どもも野菜を食べることができる等、食への関心を高めることができた。

■ モグモからのメッセージ:



2年生の生活科の基本的な流れの中で、一つ一つの活動に丁寧に取り組んだことで、子どもたちの発見が次の活動への関心へとつながっているね。

一人の「なぜ？」にみんなで知恵を出し合い、話し合いの中から答えを導いていったところもすばらしい！自分の野菜に責任と愛情を持って育てたことで、自分で「考える力」もついたんだね。

【資料：岡崎市立上地小学校2学年生活科「おおきくなあれ なつやさい」単元計画全17時間】

段階	学習活動	評価規準
であいの場	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">やさいのなえをうえよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな野菜にするか考え、野菜のおうちの準備をする。(1) ・野菜の苗を植える。(3) ・野菜の名札を作る。(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜を育てることに興味をもち、自分の育てたい野菜を考えて苗を準備し、植えることができる(関心・意欲・態度)
ひたる場	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">やさいのせわをしよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「やさいのけんこうかんさつ①」をし、野菜の「すごいところ」を絵や文で表現する。(1) ・宿題で、自分の野菜の世話の仕方を調べてくる。 ・どんな世話をしたらいいか、世話の仕方を発表する。(1) ・「やさいのけんこうかんさつ②」をし、以前観察したときと変わってきたところを絵や文で表現する。(1) ・野菜の様子や「すごいところ」の発見の仕方を話し合い、それを生かして「やさいのけんこうかんさつ③」をし、自分の野菜の「すごいところ」を絵や文で表現する。(2) ・自分の野菜について困っていることを話し合い、世話の仕方を考える。(2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の様子を意欲的に観察し、継続して世話をすることができる(関心・意欲・態度) ・野菜の適切な育て方を考え、絵や言葉で表現することができる(思考・表現) ・自分の野菜の「すごいところ」に気付くことができる(気付き) ・見つけた「すごいところ」を絵や文で表現したり、発表したりすることができる(思考・表現) ・友だちの野菜の「すごいところ」の見つけ方や世話の仕方のよさに気付くことができる(気付き)
ふりかえる場	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">しゅうかくさいをひらこう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題で、育てた野菜を使った料理を考えてくる。 ・収穫祭の計画を立てる。(1) ・育てた野菜を使って料理をし、みんなでいただく。(3) ・野菜の成長を振り返る。(1) 	<ul style="list-style-type: none"> ・野菜の収穫を喜び、意欲的に料理を考え、調理しようとする(関心・意欲・態度) ・野菜の成長とともに、野菜を育てることができたことや野菜を食べられるようになった自分に気付くことができる(気付き)